



FUJIEDA ROTARY CLUB

藤枝ロータリークラブ会報

例 会 : 毎週水曜日 小杉苑
 藤枝市青木2-35-30 TEL : 054-641-3321
 事務局 : 藤枝市青木1-11-10 TEL : 054-647-2300
 FAX : 054-647-2040
 E-mail : club1972@fujieda-rotary.org

会長:鈴木 舜光 副会長:大長 昭子 幹事:島村 武慶 副幹事:大塚 高弘

第2176回

♪ソング...それでこそロータリー ♪ソングリーダー...大塚 高弘君



ROTARY
SERVING
HUMANITY

2016-2017年度 R1テーマ

人類に奉仕するロータリー

副会長報告

大長 昭子君

鈴木会長に代わり
会長報告をさせて
いただきます。
新年度まであと
4 か月になりました。
新年度に向けての
準備が新役員の基で着々と進められています。



委員会編成表が3月1日の理事会で承認され、
早速平野リーダーにプログラム作成に入ってもらっています。

新年度は、新たに

- ① 職業奉仕セミナー
(担当奉仕プロジェクト)
- ② インターアクト指導者研修会
(担当青少年委員会)
- ③ ロータリー財団補助金事業
(担当ロータリー財団)

三つの事業を行います。

今週 17・18 日の焼津グランドホテルで開催される「会長エレクト研修セミナー(PETS)」等の会議に出席し藤枝ロータリーの事業計画に反映していきたいと思います。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

福祉の話

神奈川県相模原市の入所施設で起きた事件について、県は建て替える意向で、その費用は、80 億と言われていましたが、入所施設ではなくグループホーム等小単位で暮らせる方法が検討されているようです。

また先週、障害者のグループホームで火災が起き、3 名の入居者が亡くなりました。事故が起きる度に、グループホームへの規制が強くなり、入居者の生活の場の確保に影響がなければと思っています。

幹事報告

島村 武慶君

- ・第 2620 地区より
英字版 R o t a r i a n が届いております。
- ・公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より
ハイライトよねやま 204 が届いております。
- ・藤枝市国際友好協会より
総会のお知らせと年会費納入のお願いが届きました。

出席報告

土屋 富士子君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
32/42 76.19%	30/42 71.42%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

○池ノ谷君 ○石垣君 ○大杉君 ○櫻井君
○鈴木舜君 ○鈴木透君 ○仲田晃君 ○渡辺君
○池谷君 ○落合君

(2)メイクアップ者

池ノ谷 敏正君(焼津南) 鈴木 邦昭君(焼津南)
大塚 博巳君(焼津南)

スマイルBOX

土屋 富士子君

- ・3月12日にキム・テワン君の期間終了式に行ってきました。皆様に助けて頂きながら無事に終わる事ができありがとうございました。

土屋 富士子君

スマイル累計額 1 1 9 , 4 3 2 円

日本人生活の中に生きる「相撲文化」

講師

下村 勝彦様



日本人生活の中に生きる 「相撲文化」

主 催： 慶校ロータリークラブ
日 時： 平成29年 3月15日 (木)
場 所： 小杉苑

講師： 下村勝彦

《講師プロフィール》

1942年、満洲市生まれ
静岡県商業高等学校から明治大学へ進学、全国相撲選手権大会など各大会で活躍、1964年東京オリンピックでは、デモンストレーション演習演技者となる。また、国体選手として7回、役員、審判、コーチを含め40回出場と比類のない実績を持つ。これらの実績と情熱的な人柄、粘り強い行動で中央競技連体や全国指導者、更に様々な分野の指導者として知られて県内相撲の普及、向上発展に多大な功績を挙げている。
平成7年静岡県相撲連盟理事長に就任するや、同時に選手兼任に取り組み、平成15年静岡県では、静岡県体育協会理事長として、選手と共に相撲への情熱を見事に「成年日の初優勝」に新章を刻む。一方相撲のオリンピック種目加入に力をつくす。全国に先駆けて、平成8年、大塚に女子相撲を創設させ、全日本選手権も4回、世界大会も面接時のヤケガキ玉典や松浦康乃、山本久夫、新橋健良など多くの入賞者を育成する。タイや台湾、米国サンディエゴとの国際交流も企画し、その活動は世界に広がっている。

《主な公職》

静岡県相撲連盟会長、浜州市相撲連盟会長、静岡県武道協議会会長、日本相撲連盟副会長
日本女子相撲連盟副理事長、国際（世界）相撲連盟理事（公認審判員）、日本オリンピック委員会強化スタッフ（相撲）、静岡県体育協会評議員、浜州市体育協会会長、明治大学相撲部OB（明角会）会長

《主な経歴》

昭和40年4月 静岡トコベット入社
昭和60年5月 総務部人事教育課長
平成9年1月 取締役サービス部長、職人事務部長
平成11年6月 トヨタホーム静岡（株）代表取締役副社長
平成12年5月 （株）トヨタレンタリース静岡 常務取締役
平成14年5月 退職
平成17年4月 慶校法人協会 評議員 西浜津運動センター 顧問

「相撲文化」

文化＝人々が向上しようとして、生活の中から考え、作り出した《物》《心》裏面の成果

1. 相撲の歴史

(1) 神話の相撲

「創作文化」＝五穀豊穡を祈願する神事としての相撲

(2) 奈良平安時代

「聖武天皇」＝国家行事の1つとして「相撲の節会」を催した。

・節会使 → 相撲人 → 相撲師
《ことりづかい》 《すまいだ》

(3) 武家政治

鎌倉幕府の奨励＝武將（一旗打者）としての相撲

(4) 戦国時代

織田信長の上置相撲と職業力士の発生

(5) 江戸時代＝近代相撲の原点

① 野郎相撲、辻相撲 → 旗本と町人、可哀

② 職進相撲と「相撲会所」の設立

1. 土俵の設定 → 勝負の明確化と技の拡大

「方座・・・神仏の御前所、勝負を決する家

「相撲三神」→ 戸部大牛

→ 荒島大牛

→ 四神と神

→ 野見宿禰命

→ 四天王

2. 徳川土俵入りのパフォーマンス

(1) 旗本＝徳川の儀式（地獄絵）

最上（大岡）による「番立」49面の地獄絵（四版）。

「給神様」「天龍長久の法」

③ この儀式は行司吉田達男が相撲に転化した「横綱土俵入り」となる。

(2) 横綱免許

寛政元年（1789年）11月場所6日目 谷島 小野川に

☆長谷川平蔵寛以（流門）の灌漑

2. 相撲の知識あれこれ

(1) 力士のマナー

・31代 木村庄之助 番頭
・内閣次官（東北大臣、相撲部監督）前職

《力士とは》

・19代横綱 常陸山 → 「力士は力の士（侍）」

・44代横綱 新 鶴 → 「力士は力の紳士（紳の紳士）なれ」

《紳士》＝ それなりの《地位》《資格》を持ち《品格》と《礼儀》を重んずる人

《一流とは》＝ その世界で最高の地位にあり、常に努力をし現状に満足することなく、

更に《精》らず《強盛》である人

・「白鵬の一言」

・「大鵬の一言」

☆力士の《侍》（まじ） → 自然にかもし出される雰囲気

《所作》 → たちい、ふるまい

《博覧の笑》 → 度々こきないように、押さ止めること

→ 勝負のついたあととダメ押し

→ 土俵上の大げさなパフォーマンス

① 流石水 → 振舞と戦の真諦（ギリを切る）

② 清めの塩

③ 陣 踏 → 相手を踏む。気絶めの型

④ 仕切り立金い

⑤ 手 月 → 勝名乗り

《懸賞金》 → 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

→ 進出三神

(2) 相撲とスポーツマンシップ

スポーツにおいて勝つことは第一の目的である。しかし...

(A) 競技者が最も大切に、守らなければならないもの

(1) 尊重の心

(2) ルール

(3) 審判（判定）

(4) 敗れた時の態度

(5) 勝ったあとは、負け仲間であること

(B) ガッツポーズはなぜ禁止されるか。

「真の勝者の敗者への思いやり。」

(3) 武道の礼法

《忠告》 → 自分の真面目な心、感謝の心が相手に響くこと

生気体 → 相手に自分の真心を届けさせる心の姿勢

死気体 → この心からいかに見せかけのお辞儀

屈体の礼 → 日本の挨拶で世界に行っても通じるもの

《礼》

「礼」＝人々が円満な社会を築いて行こうとする、その（根本）となる

ものが人々の《道徳力》であり道徳心から出る行い（かたち）

が礼である。

《道徳心》＝秩序を定める心

「礼は天地の序（いとぐち）（はじめ）」である。

おはようの一言が、昔の中に和と敬の序をもたらす。

(4) 現代でも生きていく相撲言葉

(5) 行 司 → 負けを見極め勝名乗り → 荒気（押） 振々

（ハッキョイ）

「日本人の忘れもの」

きそう・・・競技とはお互いの成長を目指すもの

《相撲に張り手は許されない》

感情にまかせて張りかかるような張り手を多用する力士がいる。後味の悪いものが残ります。

相撲はボクシング、レスリングなどの他の格闘技とは全く戦い方が別である。現在に至るルールには規範の美しさに満ちている。

相手を殺傷する術を全て禁じている。

相手の顔、みぞおち、関節など弱点を突き、殴り、打ち、けつたりはしない。正々堂々と戦え、相手の弱点ばかりつくな、こうした考えが相撲である。だから力と技を競いあうことができる競技が相撲なのだ。競技として誇る理由もこのフェアな戦い方にある。

力士は土俵に上がり力水をつけ滑め

滑をまき、土俵を滑め

ザリを切って、お互いに殴り前の挨拶と神を押し

腹踏（そんきよ）をし、お互いに心をしずめ

仕切りをしながら殴り気力を充実させ

双方の闘気が増した時行司がスタートさせる

「ハッキョイ」のかけ声でもっと堂々と戦えと激励をばし

勝負がつけば手刀を切って神に感謝する

こうした一連の所作、動きの流れの中に相撲独特の美しさがある。

「戦う相手にケガをさせず、力と技を競う。のが「相撲」。

勝つに張り手をやり相手を倒すのは相撲の本質ではない。相撲は格闘技だが

徹底的に「力」を競い、「技」を競う。もので、相手を打ち敗かすことに根拠はない。

勝ちたいだけの相撲はバタバタ「はたいたり」「引いたり」だけの中身の無い

相撲になっている。

長い歴史の中につくられた相撲の本質まで日本人が忘れてしまつてはダメだ。

相 撲 の 指 導

我国、固有の格闘技である相撲は「神事性」「芸術性」を色濃く残しながら日本全国様々な形で行われている。

人間の素朴な力くらべから発生した相撲は、古代農作を祈願する神祕の相撲から朝廷の宴会相撲を経て次第に競技制を採り、武家相撲、江戸の陣地相撲において、発制度や競技規則が盛えられて今日に至っているが、御進相撲から発生した職業相撲の力士集団の興衰が大相撲へと展開し、一方節会相撲や俵間人により全国に広まっていった。童相撲、素人相撲は明治中期に学校教育に導入されてから学生相撲を中核とするアマチュア相撲として全国に定着し今日に至っている。

相撲は（武道）として柔道、剣道と並び、又、日本伝統芸術である能、お茶、花竹の（道）と相通じる修練の在り方からその道を極める努力の道徳を「稽古」と称されて来た。

「稽古」とは「古（いにしえ）の道を稽（考え）る」ことをいい、心と体の（昔のことを手本として参考にする）

両面で修得する訓練の過程を表す言葉とされる。

現在、現代的なスポーツトレーニング指導も行われているが相撲（武道）においては日本の伝統的運動文化として礼の重視、自己の制御、相手の尊重等日本人の「ものの考え方」「行動の仕方」が内在しており、勝敗にこだわる態度を慎み、心・技・体の調和のとれた育成を目標とすることを大前提にしなければならない。

相撲の土俵は世界で最も狭い格闘技場と言われている。この直径は4 m 5 5 c mの狭い土俵の中で力と技を競う競技であり構え力、持続力、柔軟性、敏捷性が必要となり、又、相手と対応する為に必要な気力や冷静さなどの精神的強さも要求される。すなわち心・技・体の三位一体が必要となる競技である。

相撲は根での格闘技であることから競技規則を守り公正な態度で競技することが要求されると共に、このような態度を養い身につけることは社会的な価値を身につけることにも通じる。

こうした相撲特有のマナー、競技規則の学習を通して人間尊重の考えや態度を育成することが大前提である。

下村 善彦

（担当／松田君）